

海外安全対策情報（2016年10月～12月）

在サンクトペテルブルク日本国総領事館

1 社会・治安情勢

サンクトペテルブルク市及びレニングラード州の社会・治安情勢は、ロシア国内全体から見ても比較的安定しています。市内で様々な意見を表明するデモや集会が組織されることもあります。しかし、時折、愛国主義者や保守主義者等が、反政府活動家や性的少数者等に対し暴力行為に及んで拘束者も出ます。大きな混乱はないですが、それらの状況に遭遇した場合には巻き込まれないよう注意が必要です。

従来と比較して発生は少なくなったものの、ナショナリズムの高揚を背景とした異民族排斥主義的な風潮も一部にまだ見受けられます。犯罪の対象は、主に中央アジアや北コーカサス等の出身者ですが、邦人の皆様も引き続き警戒が必要と思われます。

近年、世界の様々な地域において、テロ事件が発生し、特に繁華街、観光地、公共交通機関などのソフトターゲットに対し、イスラム過激派組織によるテロやこれらの主張に影響を受けた者によるテロ等が発生しています。ISILは、ロシアによるシリアでの空爆に対する報復としてロシア国内でのテロを重ねて呼びかけており、11月には、サンクトペテルブルクでも、真偽不明ながらソフトターゲットを対象にテロを計画していたとされるISIL関係者と見られる者らが拘束されています。今後、テロ等が発生する懸念もあり、さらに十分な注意を払う必要があります。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 一般犯罪情勢（[別添「安全対策上の参考事件\(平成28年10月～12月\)」](#)参照）

観光シーズンが過ぎ、サンクトペテルブルク市を訪れる観光客のピークは過ぎたものの、未だ外国人被害のスリ・置き引き・強盗等が発生しています（別添48番から54番まで）。特に、近年、路上歩行時、公共交通機関への乗降時、観光地や各種商業施設からの出入時などに、複数人に取り囲まれて貴重品類を盗まれたり、強奪されるなどのスリ・強盗被害に邦人が遭う事例もあり注意が必要です。これらは、衆人環視の場所でも発生しており、常に周囲の状況に目を配るなどの警戒心を持って行動するよう心掛けて下さい。

被害に共通する注意点として、犯人は、貴重品類の出し入れ時に収納場所を確認したり、明らかに貴重品がある場所に狙いを定めて、集団で身動きを封じたり、隙を窺うか注意を逸らせて犯行に及んでいるようです。なお、いわゆる歩きスマホで注意が散漫な時を狙って、高額な携帯電話をひったくる事例（別添54番）もありますのでご注意ください。

(2) 一般犯罪統計

国家統計庁の発表によれば、昨年1年間のサンクトペテルブルク市及びレニングラード州における犯罪認知総件数は52,351件（前年比92.7%）で、内訳は以下のとおりです（注：括弧内は前年比）。

殺人及び同未遂	212件（104.4%）
重度傷害	430件（88.3%）
強姦及び同未遂	69件（93.2%）
強盗	505件（71.9%）
略奪	2,220件（88.4%）
窃盗	20,636件（91.2%）
詐欺	2,544件（94.0%）
粗暴行為	89件（102.3%）
薬物の違法流通	13,821件（101.7%）

(3) 邦人被害事件（別添「[安全対策上の参考事件\(平成28年10月～12月\)](#)」参照）

昨年1年間に当館が認知した邦人被害事件は、未遂も含めて合計22件です。今期、当館が認知した邦人被害事件は、スリ4件、置き引き1件、ひったくり1件の計6件です（別添55番以降）。

特に、ポーチ、バッグやリュック等を所持していると狙われ易く、これらに貴重品類をまとめておくと被害が大きくなるので注意が必要です。当館のホームページ（<http://www.st-petersburg.ru.emb-japan.go.jp/anzen.html>）では、「サンクトペテルブルクにおける皆様の安全な滞在のために」ページにおいて「鞆等の持ち方について」の参考資料を掲載していますので、ぜひ一度ご覧下さい。

(4) 邦人以外の被害事件（別添「[安全対策上の参考事件\(平成28年10月～12月\)](#)」参照）

刃物や外傷性けん銃などの銃器を使用した強盗事件が、昼夜時間帯を問わず市内中心部の一般的な商店等においても発生していることから、これら事件に遭遇する可能性も排除されません。また、刃物や銃器等の武器の押収も日常的に報じられ、犯人に抵抗して死傷する事件もあります。争い事を含め何らかの事件に遭遇した際には、抵抗や深追いなどは危険ですので絶対にせず、生命・身体を守ることを最優先にして下さい。

3 テロ・爆発事件発生状況

今期、当館でテロ・爆発事件の発生は認知していませんが、11月に、真偽不明ながらサンクトペテルブルク市内中心部のガレリアを含むショッピングセンター等のソフトターゲットを対象に市内でのテロを計画していたとされるISIL関係者と見られる者

らが拘束されています。

なお、依然として、市内全域において、ショッピングセンター等の各種商業施設、空港や地下鉄等の公共交通機関、学校等の各種公共施設、集合住宅等に対し爆発物に関する虚偽通報事件が発生している上、不審物に市民が敏感になっていることもあって通報が相次ぎ、長時間の治安機関による検索で市民の生活にも影響が及んでいますので引き続きご注意ください。

また、当地は、第二次世界大戦中の独ソ戦にて長期包囲戦（いわゆるレニングラード包囲戦）が行われたこともあり、当時の砲弾等の不発弾や地雷、小銃等の武器や弾薬等が結構な頻度で発見され、まれに爆発・暴発事故も発生しています。万が一、それらが発見した場合には、「踏むな」「触るな」「蹴飛ばすな」を心がけ、直ちにその場を離れて警察等に通報してください。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

今期、当館で邦人を対象とした誘拐事件は認知していません。

この種事件の防犯対策としては、住居の警備対策をはじめ、出勤・帰宅時を含む移動時の安全対策を確立することが最も重要であり、安全のための三原則「目立たない」「行動をパターン化しない」「用心を怠らない」を徹底し、隙を見せないことが肝要です。

5 日本企業の安全に関わる諸問題

今期、当館で日本企業の安全に関わる諸問題は認知していません。

当地は、18世紀初頭、世界で最初に日本語教育が始まった町で、モスクワに次ぐ優れた日本専門家を輩出し、日本文化、日本製品等への関心は高く、対日感情は良好です。ただし、欧州が地理的に近いこともあり、日露関係についての認識は総じて高くなく北方領土問題の存在自体は知られているものの、一般的な関心は薄いと思われます。しかし、12月に行われた日露首脳会合の折には、サンクトペテルブルクでも拒絶や敏感な反応を示す方々も見られたため、当地においても言動には注意が必要です。

なお、過去、当館に対し北方領土問題への抗議が行われたこともあります。捕鯨やイルカ漁といった自然保護問題への抗議と比べればまれです。

6 その他参考としてテロ等に対する安全対策

無差別テロの特徴として、少ない労力で最大の被害を狙うため、人が大勢集まる場所（公共交通機関施設、観光地、劇場、レストラン等）や時間（ラッシュ時、イベント開催時、週末の夜、休日の日中等）を狙います。

被害に遭わないための一般的配意事項として、常日頃から治安情報にも目を向け、危険な場所にはなるべく近づかず滞在時間もできるだけ短くし、周囲の不審者（不自然な厚着、挙動不審で目立つ等）や不審物件（所有者不明な荷物、放置物等）に注意を払い近づかない、速やかにその場を離れるなどの用心を怠らないことが必要です。

また、実際に、テロ・爆発事件に遭遇した場合に被害を最小限に抑えるため、例えば次の諸点を心がけることをお勧めします。

<予防措置>

- 退避ルートを確認する。
- 隠れられる場所を確認する。
- 常に周囲の状況に注意を払い、不審者や不審物を見かけたら速やかにその場を離れる。

<対処法>

- その場に伏せるなど直ちに低い姿勢をとる。
- 頑丈なものの陰に隠れる。
- 周囲を確認し、可能であれば、銃撃音等から離れるよう、速やかに、低い姿勢を保ちつつ安全なところに退避する。